

講義名	ブラッシュアップ中国語			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

すでに「言語と社会」、「中国語A」、「中国語B」などで学んだ初歩の中国語にみぎをかけ、さらに新しい語彙や文法を積み重ね、中国語の基礎をよりまとまりのあるものにしていきます。レベル的には、中国語の初級から中級への橋渡しの位置づけになります。会話だけでなく講義の内容もありますので、中国語の総合的なレベルアップが期待できます。

到達目標

- 平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
 - 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる
- 中国語検定試験のレベルを目安とすると、4級レベルの中国語に相当します。検定試験4級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

とくに課題は予定していません

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は返却した上で、講評します

評価の基準

次の点を総合的に判断します
 平常点（出席状況、受講態度） 30%
 中間試験と期末試験 70%

履修にあたっての注意・助言他

この科目は、これまでに「言語と社会」、「中国語A」、「中国語B」などを履修し、すでに中国語の基礎を学んだ人を対象としています。中国語初心者向けの授業ではありませんので注意してください。中国語がはじめての方はまず「中国語A」や「中国語B」を履修してください。
 必ずテキストを購入し、授業に臨んでください。受講態度として評価の対象とします。

教科書	「さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講義」	白水社	竹島毅・趙昕	2500	9784560069349
-----	---------------------	-----	--------	------	---------------

参考図書

その他

特になし

授業計画

- 授業案内、ウォーミングアップ（復習）
 - 第6課 会話：授業は終わりましたか？
 - 第6課 講義：カラオケ
 - 第7課 会話：ご飯、食べましたか？
 - 第7課 講義：海へ行く
 - 第8課 会話：富士山に登ったことはありますか？
 - 第8課 講義：北京が好き
 - 第9課 会話：何をしていますか？
 - 第9課 講義：運転を習う
 - 第10課 会話：どんな趣味をおもちですか？
 - 第10課 講義：コンパ
 - 第11課 会話：このくつはどですか？
 - 第11課 講義：アーム
 - 第12課 会話：誕生日おめでとう！
 - 第12課 講義：服を買う
- 予備：13課、14課、15課

テキストの6課からスタートします。1.5回～2回の授業で毎課を消化するペースを基本とします。受講生の習熟度に応じて適宜ペースを調整します。学期半ばで中間試験を実施します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> U：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E：グループワーク
<input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【予習】
 新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で作成させてください。次の授業で学ぶところに目を通し、分るところと分からないところを、明確にしておいてください。テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください。
 （以上、2時間程度）
- 【復習】
 授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返し」を行ってください。ドリルなどの宿題をします。今回学んだポイントの定着を図ります。講義のピンインを手書きし、ピンインを体で覚えます。テキスト付属のCDを聞きながら、講義を読みます。
 （以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、言語学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考